

Title	和歌山県西牟婁郡白浜町の瀬戸漁港において流れ藻で一 時休息した淡水性アメンボとイトトンボの一種
Author(s)	久保田, 信
Citation	KINOKUNI (2011), 79: 16-16
Issue Date	2011-07
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/180711">http://hdl.handle.net/2433/180711</a>
Right	© 和歌山昆虫研究会
Type	Article
Textversion	publisher

## 和歌山県西牟婁郡白浜町の瀬戸漁港において流れ藻で 一時休息した淡水性アメンボとイトトンボの一種

A damselfly and a fresh-water strider take a rest on a floating *Sargassum* on sea surface at Seto fishing port in Shirahama town, Wakayama Prefecture, Japan

久保田 信

淡水性のアメンボ *Aquarius paludum* (Hemiptera, Gerridae) が、和歌山県西牟婁郡白浜町の3ヵ所（瀬戸漁港・白浜町才野のタイドプール・鴨居漁港）において、2000年から2009年までに海面を滑走する稀な行動（一年間で数回程度で、遭遇しない年もある）を記録した（久保田, 2004, 2006, 2008, 2009）。

今回、同じく瀬戸漁港において、2011年6月10日13時23分に、1個体のアメンボが海面を淡水で見られるようにすいすいと遊泳していた。しばらくすると、岸壁に沿って海面上に浮いている1本の流れ藻（ホンダワラ類の一種で、長さ約1 m、幅30 cmに広がる）にそのアメンボは乗っかり、1分ほど休んだ。その後、再び遊泳したが、すぐにまた同じ流れ藻にもどって、1分ほど休んだ。すぐにまた遊泳し始め、三艘の小舟の間を通過して泳ぎ去った。流れ藻は港の最奥の海面にびっしりとは浮いておらず、まばらにある状態だった。

このアメンボに遭遇する直前に、イトトンボの一種（体色が緑で腹部先端付近の一部が青色）が海面上すれすれにゆっくり飛翔していたが、その同じ流れ藻に1分ほど1回止まって、翅を閉じて休むのが観察された。

### 引用文献

久保田 信. 2004. 海面を滑走するアメンボの記録. KINOKUNI, (65): 9-10.

久保田 信. 2006. 体液する「バンパイア」海面滑走する淡水性アメンボ. In「宝の海から 白浜で出会った生き物たち」. pp. 80-81, 図版, 25.

久保田 信. 2008. 海面を滑走するアメンボの追加記録. KINOKUNI, (73): 8-9.

久保田 信. 2009. 和歌山県西牟婁郡白浜町の鴨居漁港で海面を滑走した淡水性アメンボ. KINOKUNI, (76): 22.

（くぼた しん 〒649-2211 西牟婁郡白浜町臨海459 京都大学フィールド科学教育研究センター  
瀬戸臨海実験所）